

【問題 1 - 1】現金

金庫の中を調べたところ次のものが入っていた。現金勘定の金額はいくらとなるか求めよ。

硬貨	100円	紙幣	20,000円
郵便為替証書	20,000円	他店振出の小切手	12,000円
配当金領収証	35,000円	当店振出の小切手	20,000円
送金小切手	20,000円	期限の到来した公社債の利札	2,000円

円

【問題 1 - 2】現金 2

次の取引の仕訳を示しなさい。

1. 材料を 20,000 円を仕入れ、代金を現金で支払った。
2. 営業用建物 500,000 円を購入し、代金を現金で支払った。
3. 倉庫が完成しA店へ 12,000 円で引き渡し、代金は同店振出の小切手を受け取った。
4. 建物が完成し 20,000 円で売り渡し、代金として同店振出C銀行宛小切手を受け取った。

取引	借方	金額	貸方	金額
1				
2				
3				
4				

【問題 1－3】現金過不足 1

次の一連の取引の仕訳を示しなさい。

1. 現金の残高が帳簿残高より 20,000 円不足していることが判明した。
2. 上記不足額のうち 2,000 円は手数料の支払いの記入漏れであることが判明した。
3. 1. の不足額のうち、1,000 円は切手代の記入漏れであることが判明した。

取引	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				

【問題 1－4】現金過不足 2

次の一連の取引の仕訳を示しなさい。また、現金勘定並びに現金過不足勘定の記入をしなさい。

7月15日 現金の実際残高は 20,000 円であり、原因を調査することにした。

7月18日 上記差額のうち 1,500 円は、手数料の受け取りの記入漏れであることが判明した。

日付	借 方	金 額	貸 方	金 額
7/15				
7/18				

現 金	
7/1 前 月 繰 越	18,000
現 金 過 不 足	

【問題 1－5】現金過不足 3

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 現金の手許有高を調べたところ、帳簿残高よりも 4,000 円不足していた。
2. 現金不足額のうち 3,400 円は、交通費の記入洩れであった。
3. 現金不足額のうち 600 円は原因が不明のため、決算にあたり雑損として処理した。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				

【問題 1－6】現金過不足 4

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 現金の手許有高を調べたところ、帳簿残高よりも 7,000 円多かった。
2. 現金過剰額のうち 5,000 円は、受取手数料の記入洩れであった。
3. 現金過剰額のうち 2,000 円は原因が判明しないため、決算にあたり雑益とした。
4. 帳簿残高と実際有高を調べたところ、帳簿残高 12,300 円、実際有高 13,200 円であった。
5. 上記 4. の原因を調べたところ完成工事未収入金 1,000 円を回収したときに、帳簿には完成工事未収入金の回収額 100 円と記入していた。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

【問題 1－7】当座預金 1

次の取引の仕訳を示しなさい。

1. 現金 5,000 円を当座預金に預け入れた。
2. 材料 2,000 円を仕入れ、小切手を振り出して支払った。
3. 建物が完成し 5,000 円で売り上げ、代金は得意先振出の小切手で受け取り、直ちに当座預金に預け入れた。
4. 建物が完成し 3,000 円で売り上げ、代金は当社振出の小切手で受け取った。

取引	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				
4				

【問題 1－8】当座預金 2

次の一連の取引の仕訳を示し、当座預金勘定、当座借越勘定の記入を示しなさい。また、取引銀行と100,000円の当座借越契約が結ばれており、3月31日の当座預金の預金残高は、50,000円である。

- 4月2日 建物が完成しA建設に10,000円で売り渡し、代金はA建設振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- 4月3日 B資材より材料70,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- 4月10日 受取手数料80,000円が当座預金口座に入金された。

日付	借 方	金 額	貸 方	金 額
4/2				
4/3				
4/10				

当 座 預 金

4/1 前月繰越	50,000	

当 座 借 越

【問題 1－9】銀行勘定調整表 1

次の資料により、(1) 銀行勘定調整表を作成し、(2) 決算修正仕訳を示しなさい。なお、仕訳不要のときは借方欄に「仕訳なし」と明記しなさい。

3月31日における会社の当座預金残高は15,720円であるが、銀行から入手した当座勘定残高証明書の金額は20,720円であった。両者を照合した結果、次の事実が判明した。

1. 銀行では当座預金から自動引き落とし済みであるが、当社では未記帳の水道光熱費3,000円。
2. 3月31日に工事未払金支払いのために振り出して記帳し、相手先に交付したが未取付の小切手6,000円。
3. 完成工事未収入金の回収としての得意先からの当座振込12,000円を銀行では記帳したが、当社では未記帳である。
4. 3月31日に夜間金庫に預け入れた現金10,000円を当社では記帳したが、銀行では翌日預け入れとして記帳している。

(1) 銀行勘定調整表の作成

		銀行勘定調整表	
		平成×年3月31日	
		(単位：円)	
摘	要	会社の当座預金残高	銀行の残高証明書残高
3月31日現在		15,720 円	20,720 円
加算：当座振込		()	
：翌日廻し預入			()
		() 円	() 円
減算：水道光熱費		()	
：未取付小切手（支払未済小切手）			()
		() 円	() 円

(2) 決算修正仕訳

番号	借方	金額	貸方	金額
1				
2				
3				
4				

【問題 1－10】銀行勘定調整表 2

東京物産株式会社が、取引銀行（第七銀行）より取り寄せた当座預金の残高証明書（平成×年 3 月 31 日現在）は、当社の当座預金出納帳の残高と一致していなかった。次の【資料】により銀行勘定調整表を作成しなさい（摘要欄と金額欄に記入すること）。また、期末修正仕訳を示しなさい。ただし、仕訳が不要の場合には借方欄に「仕訳なし」と記入すること。

【資料Ⅰ】第七銀行の残高証明書残高 224,900 円

【資料Ⅱ】東京物産株式会社の当座預金出納帳残高 223,900 円

【資料Ⅲ】不一致の原因を調査したところ次の事項が判明した。

1. 材料仕入先A商店に振り出した約束手形 60,000 円が期日に決済され支払われていたが、当社では未記入であった。
2. 備品の購入代金支払いのため小切手 30,000 円を振り出したが、先方に未渡しであり、いまだ出納係の手許にあった。
3. 借入金の利息 5,000 円が当座預金口座から引き落とされていたが、当社では未記入であった。
4. B商店より完成工事未収入金の回収として振り込まれた 46,000 円を 40,000 円と記帳していた。
5. 工場消耗品費仕入先C商店に対する工事未払金の支払いとして振り出した 50,000 円が、銀行に未呈示であった。
6. 3 月 31 日に現金 20,000 円を当座預金口座へ預け入れたが、銀行の営業時間終了後であったため、銀行は翌日の入金として処理していた。

銀行勘定調整表

平成×年3月31日

(単位：円)

摘	要	金	額
	東京物産株式会社の当座預金出納帳残高		()
	加算：		
	()	()	
	()	()	
	()	()	()
	計		()
	減算：		
	()	()	
	()	()	
	()	()	()
	第七銀行の残高証明書残高		()

期末修正仕訳

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								
3								
4								
5								
6								

【問題 2 - 1】手形取引 1

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 東京商店へ建物を 50,000 円で引き渡し、代金として同店振り出しの約束手形を受け取った。
2. 材料 80,000 円を仕入れ、代金として約束手形 60,000 円を振り出し、残額は掛とした。
3. 工事未収入金の決済として、埼玉商店振り出し、東京商店宛の約束手形 70,000 円を横浜商店より裏書譲り受けた。
4. 工事未収入金の決済として、当店振り出しの約束手形 20,000 円を裏書譲り受けた。
5. 千葉建材から材料 36,000 円を仕入れ、この代金は、工事未収入金 80,000 円のある得意先東京建築を名宛人とする為替手形を振り出し、同店の引き受けを得て渡した。
6. 東京商店に建物を 24,000 円で引き渡し、この代金を同店振り出し、神奈川建材引き受けの為替手形で受け取った。
7. 名古屋資材から工場消耗品 52,000 円を仕入れ、この代金として同店振り出し、静岡商店受け取りの為替手形を呈示されたので、その支払いを引き受けた。
8. 取引銀行から 200,000 円の借り入れを行い、この借入金に対して約束手形を振り出し、利息を差し引かれた手取金は当座預金とした。借入期間は 73 日で、利率は年 4 %である。
9. 横浜商店に対する工事未収入金を取り立てるため、同店宛当店受取の為替手形 500,000 円を振り出し、同店の引き受けを得た。
10. 千葉建材に対する工事未払金を支払うため、自己引受為替手形 230,000 円を振り出した。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

【問題 2-2】手形取引 2

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 横浜物産は材料 200,000 円を仕入れ、代金として鎌倉商店より受け取った約束手形を裏書譲渡した。なお、裏書時における保証債務（遡及義務）の時価はゼロとする。
2. ① 得意先新宿建物から同店に対する工事未収入金の回収として、品川建物振り出し、渋谷建築宛の為替手形 200,000 円（引受済み）を裏書譲り受けた。
② 仕入先大手町商店に対する工事未払金の支払いとして、上記の為替手形 200,000 円を裏書譲渡した。なお、裏書時における保証債務（遡及義務）の時価は手形金額の 2%とする。
③ 上記の為替手形が、満期日に決済された旨の通知を受けた。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2	①							
	②							
	③							

【問題 2－3】手形取引 3

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 千葉建材より受け取った約束手形 500,000 円を取引銀行で割り引き、割引料 7,000 円を差し引かれ、手取金を当座預金とした。なお、割引時における保証債務は手形金額の 1%とする。
2. 上記 1. の約束手形 500,000 円が満期日に決済された旨の連絡を取引銀行より受け取った。
3. さきに神奈川商店から受け取った同店振出の約束手形 800,000 円を銀行で割り引き、割引料を差し引かれた手取金を当座預金に預け入れた。割引日数は 50 日で、利率は年 7.3%である。なお、割引時における保証債務は手形金額の 2%とする。
4. 横浜商店より受け取った約束手形 200,000 円を銀行で割り引き、割引料を差し引かれた残額は当座預金とした。なお、割引日数の計算は両端入によること。

割引日 9月10日、支払期日 11月21日、割引率 年5%

なお、割引時における保証債務の時価はゼロとする。

番号	借方	金額	貸方	金額
1				
2				
3				
4				

【問題 2－4】手形取引 4

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. かねて京都商店に対して材料代金の支払いとして約束手形 530,000 円を振り出していたが、本日、同手形の満期日が近づいたが資金不足のため、京都商店に申し入れて、延期分の利息 7,000 円を現金で支払い、新手形を振り出した。
2. 大阪建物は、仕入先神戸資材へ振り出していた約束手形 350,000 円の満期日が近づいたが、支払資金の不足のため神戸資材の承諾を得て、期日を延長し、旧手形と交換に新たに約束手形を振り出した。なお、延期分の利息として 6,000 円を現金で支払った。
 - ① 大阪建物の仕訳
 - ② 神戸資材の仕訳
3. かねて名古屋商店から 200,000 円を借入れ、それに対して約束手形を振り出していた横浜建物は、同手形の満期日が到来したが資金の都合がつかないので、名古屋商店に申し入れて、利息 3,000 円を含めた新しい手形を振り出した。
 - ① 横浜建物の仕訳
 - ② 名古屋商店の仕訳

番号		借 方	金 額	貸 方	金 額
1					
2	①				
	②				
3	①				
	②				

【問題 2－5】手形取引 5

次の各取引の仕訳を示しなさい。なお、手形の裏書、割引の処理は直接減額法によること。

1. ① 所有の神奈川建設振り出しの約束手形 100,000 円が不渡りとなったので、支払拒絶証書作成費用および償還請求の費用の合計額 5,000 円を現金で支払い、神奈川建設に代金を請求した。
 ② 上記①の不渡手形の金額と法定利息 1,000 円とともに現金で神奈川建設より受け取った。
2. かねて東京建設振り出しの約束手形 200,000 円を中央銀行で割引いたが、本日、この手形が不渡りとなった旨の連絡を中央銀行から受け、償還請求のための費用 5,000 円と手形代金を現金で支払い、東京建設に立替分を請求した。
 なお、割引時における保証債務は記帳していない。
3. かねて横浜建設に裏書譲渡していた約束手形 3,000,000 円につき、支払人が決済日までに資金を準備できず不渡りとなった。そのため横浜建設より支払いの遡求を受け、支払拒絶証書作成費 15,000 円、延滞利息 2,000 円とともに小切手を振り出して支払った。なお、裏書時において保証債務の時価 30,000 円を記帳している。
4. 東京建設は、仙台資材振り出し、関東建設裏書の約束手形 400,000 円について、満期日に取引銀行を通じて取立を依頼したところ、取立不能となったので、関東建設に対して手形代金の支払いを請求した。
 なお、この請求にあたって拒絶証書の作成費 23,000 円を現金で支払った。
5. 取引銀行で割引いた東西建設振り出し、当店受け取りの約束手形 500,000 円が不渡りとなったため、この代金が満期日以後の利息 2,000 円とともに、当座預金から引き落とされた。なお、割引時における保証債務の時価は手形金額の 2%として記帳されている。

番号		借 方	金 額	貸 方	金 額
1	①				
	②				
2					
3					
4					
5					

【問題 3-1】 有価証券 1

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. ① 売買目的で横浜工業株式会社の株式 100 株を 1 株 80,000 円で購入し、代金は現金で支払った。
 ② 同社の株式 50 株を 1 株 74,000 円で購入し、代金は現金で支払った。
 ③ 同社の株式 80 株を 1 株 90,000 円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。平均法による。
2. 売買目的で株式 10,000 株を @300 円で買い入れ、代金は買入手数料 36,000 円とともに小切手を振り出して支払った。
3. ① 売買目的で額面 1,000,000 円の国債を @97 円で買い入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
 ② 上記国債のうち、額面 500,000 円を @99 円で売却し、売却代金は現金で受け取った。
4. 当期に売買目的で購入していた A B 商事株式会社の株式 2,000 株（1,200 株は 1 株につき 2,500 円、800 株は 1 株につき 2,800 円で購入）のうち 600 株を 1 株につき 3,000 円で売却し、代金は現金で受け取った。なお、株式の単価は総平均法によるものとする。

番号		借 方	金 額	貸 方	金 額
1	①				
	②				
	③				
2					
3	①				
	②				
4					

【問題 3-2】 有価証券 2

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 売買目的で社債額面 5,000,000 円を、額面金額 100 円につき 98.50 円（裸相場）で買い入れ、代金は端数利息とともに小切手を振り出して支払った。なお、利率は年 8% で、前回利払日の翌日から購入日までの日数は 73 日であった。
2. 平成×年 10 月 12 日、売買目的で社債額面 2,000,000 円を 100 円につき 98 円（裸相場）で買い入れ、端数利息を含めて小切手で支払った。同社債の利率は年 7.3%、利払日は毎年 3 月末と 9 月末の 2 回であり、日割り計算とする。
3. 平成×年 9 月 18 日に、かねて額面 100 円につき 98 円で購入していた売買目的の A 社の社債額面総額 1,000,000 円を額面 100 円につき 99 円で売却し、代金は前の利払日の翌日から売却日までの利息を含め、月末に受け取ることにした。なお、同社債は、償還期限 5 年、利率年 7.3%、利払日 6 月 30 日と 12 月 31 日の年 2 回の条件で発行されたもので、利息は日割り計算による。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								
3								

【問題 3－3】 有価証券 3

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 前期に売買目的で購入したE社の株式 200 株（1 株当たりの取得原価 70,000 円、帳簿価額 60,000 円）は、当期末の時価が 1 株当たり 65,000 円であり評価替え（切放法）を行った。
2. 当期首に、満期保有目的として額面 100 円につき 96 円で発行と同時に購入していたF社の社債額面総額 10,000,000 円につき、期末に償却原価法（定額法）を適用して評価替えした。なお、償還期限は5年、利率年3%、利払日は6月末と12月末、決算日は毎年12月31日であり、12月末分の利札についても未処理であるので処理を行う。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								

【問題 3-4】 有価証券 4

決算日における有価証券の内訳は次のとおりである。よって各有価証券の貸借対照表価額を求めなさい。

【資料】

銘 柄	保有目的	帳簿価額	時 価	備 考
A 社 株 式	売 買 目 的	8,500 千円	8,600 千円	
B 社 株 式	そ の 他	15,000 千円	14,500 千円	全部資本直入法による
C 社 株 式	そ の 他	6,000 千円	市場性なし	実質価額は 2,500 千円
D 社 株 式	売 買 目 的	4,500 千円	4,200 千円	
E 社 株 式	子 会 社	3,500 千円	1,600 千円	著しい時価の下落 時価の回復の見込みなし
F 社 社 債	そ の 他	2,500 千円	2,600 千円	全部資本直入法による

銘 柄	貸借対照表価額
A 社 株 式	千円
B 社 株 式	千円
C 社 株 式	千円
D 社 株 式	千円
E 社 株 式	千円
F 社 社 債	千円